会　議　録

【事業番号１８　学生と金沢の企業をつなぐ就職支援事業費】

１　会議名　　平成 29 年度第４回市民行政評価委員会
２　日　時　　平成 29 年 10 月 18 日（水）午後３時 20 分～３時 50 分
３　場　所　　議会第３委員会室
４　出席者
（１）市民行政評価委員会委員
　　岡田委員長、村田委員、山崎委員、寺田委員、大家委員
　　喜成委員、西山委員、藤田委員、安田委員
（２）事業担当課（労働政策課）
　　東田課長、藤田係長
（３）事　務　局（行政経営課）
　　津田課長、松本課長補佐、島崎係長、古谷主査

５　審議内容

評価委員　：　11 月の未内定者対象の就職面接会はもっと参加が見込めるように思えるが、大学等への周知はどのようにしているか。（事前質問）

事業担当課　：　本市の就職面接会は、来春卒業予定の学生のほか、35 才以下の若年者を対象に毎年 11 月に開催している。ここ数年の就職環境の好転もあり、この時期での就職内定率が高まっていることが参加者の減につながっているのではないかと考えている。毎年の開催にあたっては、近隣大学の就職支援担当課を職員が訪問し、学生の参加を呼びかけるとともに、学生や若者と接する機会の多い、ヤングハローワークや若者サポートステーション石川など、関係機関との協力・連携のもと、周知を行っている。

評 価 委 員　：　参加学生数減少の原因をどのように分析しているか。（事前質問）

事業担当課　：　就職環境が好転し、ここ数年は学生の売手市場となっていることから、学生の大手企業指向や大都市圏での就職意欲が上昇し、市内中小企業が主に参加する事業への参加希望者が減少傾向にあるのではないかと考えている。ハローワーク金沢管内（金沢市、かほく市、内灘町、津幡町の２市２町）の有効求人倍率の５年間の推移を見ると、平成 25 年３月の 1.09 倍から、直近の平成 29 年３月では、1.91 倍まで上昇しており、市内の中小企業においては、学生を含め人材確保が困難な状況が続いている。なお、平成

25 年度は 150 人参加の合同企業ガイダンスを開催したが、石川県や民間人材紹介会社においても市内で同様の事業を同時期に開催していることから、平成 26 年度からは金沢で働く魅力をより身近に感じられるよう、社会人との交流会へと転換したため、参加学生数が大きく減少している。

評 価 委 員　：　交流会・見学会・面接会等への参加企業の選定はどのように行っているか。（事前質問）

事業担当課　：　交流会や見学会は、金沢の企業を知るとともに、金沢で働く魅力を感じてもらうため、本市が実施する雇用環境改善に取り組む「はたらく人にやさしい事業所表彰」の受賞企業や、医療・環境関連の企業が集積する金沢テクノパークの企業、国内外で高いシェア持つ企業などを中心に選定している。面接会は、金沢市内に本社又は事業所を置く企業を対象に募集している。

評 価 委 員　：　実際に市内企業に就職した参加者数は把握しているか。（事前質問）

事業担当課　：　合同就職面接会は来春卒業予定の学生等を対象としているため、面接後の内定状況の確認を行っているが、交流会や見学会については、地元企業の魅力を知ってもらい、職業観の醸成や職業選択の幅を広げる事を目的に、本格的な就職活動に入る前の大学３年生以下の学生等を対象としていることから、就職状況等の把握はしていない。

評 価 委 員　：　二次評価に「これまでの成果を検証」とあるが、その検証方法は何か。（事前質問）

事　業　局　：　例を挙げるとすれば、費用対効果の視点で一般的に用いられる「参加者一人あたりの経費がどの程度かかっているか」や「この事業を通して地元企業へ就職した学生が何人いるか」などが考えられる。

評 価 委 員　：　平成 28 年度にイベント回数を５回から３回へ減らした理由は何か。（事前質問）

事業担当課　：　学生と企業の社会人との交流会について、平成 27 年度までは企業側の出席対象者を「経営者」「若手社員」「人事担当者」に分け、年３回実施していたが、学生が知りたいことに幅広く対応するため、経営者や人事担当者など様々な立場の方の本音を同時に聞いてもらえるよう、平成 28 年度からは企業側の出席対象者を区分せずに、年１回の実施に見直した。そのことにより全体のイベント回数が２回減少した。

評 価 委 員　：　地元中小企業の人材不足支援は重要ではあるが、就職する学生にとっても一生の問題であり、賃金や労働条件、会社の将来性などが整わないと見向きもされないのは必然なのではないか。（事前質問）

事業担当課　：　学生にとって就職活動は、自分の将来を左右しかねない重要なことあり、学生が企業を選ぶ際には、賃金や労働条件、会社の将来性、また、ワークライフバランスの推進など、多角的な視点を持って慎重に検討していることと思う。そのため、本格的な就職活動に入る前に、「企業見学会」や「社会人との交流会」などで、企業に対する理解や見識を深めてもらうとともに、中小企業ならではの魅力的な働き方があることも知ってもらう必要があると考えている。ただ、学生の参加者が伸び悩んでいることも事実であり、地元企業の魅力を発信するとともに、日本経済を支えている中小企業の経営力となる人材の確保も重要であるため、より効果的な周知方法を検討していきたいと考えている。

評価委員　：　参加者をもう少し見込めるのではないか。学校の就職担当課にPRした後、どうやって学生に伝わっているかフォローしているか。

事業担当課　：　大学の就職担当課によって対応が異なるのでフォローはなかなか難しい。やはり情報が掲示されるだけで情報が止まっているなど、伝達が循環されないところは参加者が少ない。

評価委員　：　学生に一斉メールをやるような大学や掲示だけの大学もあるが、やはり大学ごとの対応に任せるしかないのだろうか。

事業担当課　：　学生が就職についてまだ大変さを感じていないこともある。就職ということをイメージ化させるような機会をもっと提供したいと考えている。

評価委員　：　大手企業には全国転勤があるなどの理由で、地元で就職したい学生がいる。ニーズはたくさんあると思う。

事業担当課　：　中小企業ならではの魅力的な働き方があると考えている。例えば、経営者と近い位置にあれば、自己の企画を上層部にすぐ伝えることができたり、子育てや介護との両立の環境は金沢のほうが充実している、といったことを今の学生は魅力に考えている。ワークライフバランスの推進も念頭におきながら、中小企業にも働きかけを行っていきたい。

評 価 委 員　：　この事業の基本的な考え方は学生と企業の橋渡しだと思うが、橋渡しの役目をイベントや説明会を中心とした活動にしているという風に感じる。地元企業の良さを知ってもらうために、どうい

う活動をしているのか。

事業担当課　：　金沢イクボス企業同盟が今年２月に発足したので、働き方についても発信していきたい。金沢ＵＪＩターンセミナーでは、金沢で働くことのイメージを紹介するリーフレットを配っている。このような活動に取り組んでいきたい。

評 価 委 員　　参加者からアンケートはとっているのか。そこで時期や開催方法についての意見はなかったのか。

事業担当課　　アンケートは実施している。参加者数が少ないのは、学生が希望する企業が参加していなかったことも想定される。

評 価 委 員　　就職したくなるように、企業がもっと魅力を PR すべきではないか。

評 価 委 員　　市内だけではなく、広域で企業を選択してはどうか。

事業担当課　　魅力向上について、企業に働きかける必要はあると考えている。